

花子さんと太郎君は留学について話し合っています。

花子：今度、近所の高校生が外国に留学するのよ。

太郎：へえ、外国で勉強するなんてすごいね。

花子：これから活躍する若い人たちは、日本のことをよく知った上で、さらに外国のことも学ぶ必要があるって、先生も言っていたわ。

太郎：日本の高校生は、どのくらいの人が留学しているのかな。逆に外国の高校生は、どのくらいの人が日本に留学しているのかな水中では、空気がたりなくて発芽しないのではありませんか。

花子：調べてみましょう。

太郎：表1を見ると、どうやら外国から日本に留学する高校生よりも、日本から外国へ留学する高校生のほうが多いみたいだね。

花子：表1を使って、外国からの留学者数を元にした外国への留学者の割合を調べてみましょう。

表1	外国への留学者数	外国からの留学者数	外国からの留学者数を元にした外国への留学者数の割合
平成23年	33210	4435	ア
平成25年	42049	6631	
平成27年	35842	6333	
平成29年	46869	6069	イ

(文部科学省平成29年度高等学校等における国際交流等の状況について)

〔問題1〕

表1のアとイに当てはまる数を、それぞれ小数第3位を四捨五入して小数第2位まで求めなさい。また、表1から言える全体的な傾向について説明しなさい。

〔問題1〕ア	〔問題1〕イ
〔問題1〕傾向	

解答

割合計算ですが、「外国からの留学者数を元にした」という指示に注意してください。
外国への留学者が、外国からの留学者の何倍いるかを聞いています。

アは $33210 \div 4435 = 7.488 \dots \rightarrow 7.49$ 倍

イは $46869 \div 6069 = 7.722 \dots \rightarrow 7.72$ 倍です。

また、全体的な傾向ですが「外国への留学者のほうが、外国からの留学者数より多い」ということが言えればよいでしょう。数値を入れるとしたら、「つねに5倍以上」や「およそ6~7倍」、変化については一貫した傾向が見られないのでとくにコメントする必要はありませんが、「増減をくり返している」的な内容を入れてもよいでしょう。

〔問題1〕 ア 7.49	〔問題1〕 イ 7.72
〔問題1〕 傾向 人数の変動はあるが、外国への留学者のほうが、外国からの留学者よりも5倍以上多い。	